

リーダーの役割と心構え（安全面）

指導を行うにあたって

森林ボランティア活動では、参加者が学生、社会人、女性や子供と様々であり、又体力、思考、興味対象がかなり異なるため、指導者(安全リーダー)はプログラム内容を事前に把握し、参加者にあった指導を実行していきたいと願う。

参考図書を使つての説明も必要だが、現地で実施しながら体験談や現場の知識などを説明する方が、参加者の興味は一層かき立てられる。参加者が安全リーダーの説明に耳を傾けるようになれば、戸惑いを感じたりすることなくスムーズに作業が進行し、プログラム内容も有意義なものになる。

安全指導のポイント

足場が悪いことを念頭に

林業体験の現場では、ハイキングや登山と違って、必ず歩きやすい道があるわけではない。又、作業現地は斜面での行動が中心となる。しかも足場の悪い地形に加えて、作業中は刃物を扱わなければならない。指導者は常にそれを念頭において、自分のペースで歩いたり、作業を行ってはいけない。

個人差を考慮する

女性と男性、大人と子供、そして一人ひとりに個人差があることを十分承知して対応しなければならない。例えば、怖がっている女性に無理矢理、刈払機等を使わしても、参加者は、恐い体験をしただけになってしまう。プログラムの中には、刈払後の処理や伐採木の後片付けなどもあるので、性格や個人差を考慮したうえで指導する。

声掛け・合図を明確に

作業の開始、休憩、終了時には必ず大きな声で合図を出す。特に注意事項を説明する際には、より大きな声で伝えることは大変有効である。参加者は林業に対して初心者なので、作業中に注意事項を忘れがちである。注意点を見つけた場合は、周りの人にも注意した内容を、大きな声で伝えることも大変有効である。

作業時以外にも注意は必要

一般的には斜面よりも平地の方が、また作業中より休憩時の方がより安全であると思われがちだが、緊張感と安心感の問題で注意力が散漫になりがちである。意外に休憩時間中にケガをする例がある。下刈、枝打ち、間伐などの作業では刃物を扱うので、指導者は作業時以外にも注意を怠らないようにしたい。

参加者個人のペースに合わせる

作業能力は個人差があって当然である。無理に指導者や周囲のペースに合わせると、ケガをする元になる。疲れたら自分自身から休むようにさせることが大切である。

例として、ある体験林業教室でのこと。参加者の女子学生が「学校では、さぼるな、休むなといつも言われますが、ここでは疲れたら、自分で休んでいいですよとインストラクターが言ってくれたのが一番嬉しかった」とアンケートでは書いている。それでかえって自分から作業しようという意欲が出て、仕事をした満足感を得られた、と言うのである。こうした参加者の心理をインストラクターは心得ておく必要がある。

その他の注意事項

体験作業の実施前に、必ずスタッフ全員でフィールドの下見を行い、危険は無いが、カリキュラム進行の妨げにならないか、あるいは緊急時の避難経路や連絡先を確認しておきたい。

また、体験作業前には、参加者の体調の確認、服装が守られているか、道具類は安全であるか、などを確認する。

**安全に森林ボランティア活動を進めるためには
事前の準備「段取り 8分、実行 2分」**

作業現場は安全リーダーの判断

状況の変化が合った場合は、しかるべき対策を取る必要があり、もし、対策が取れない場合は、中止の決断をするのも安全リーダーの大きな役割である。

活動開始前に判断を求められる場合

- ・当日の天候が予定している内容に適さない場合
- ・当日までに現地の状況を悪くする原因があった場合(豪雪・豪雨等)
- ・準備段階でリスクマネジメントを行った項目について、状況の変化が起こった場合

活動中に判断を求められる場合

- ・参加者の健康状態が変化した場合
- ・ケガが発生した場合
- ・新たなリスクを発見した場合
- ・準備段階でリスクマネジメントを行った項目について、状況の変化が起こった場合
- ・作業が遅れるなどして予定した内容が変わった場合

活動実施後の把握と活用

参加者と一緒に、作業の振り返りやアンケートを実施し、活動中に発生した“ひやり”“はっと”を把握する。

スタッフの反省会を実施し、計画や対策案が妥当であったか検討すると共に“ひやり”“はっと”の情報を共有する。

リスクマネジメントが的確だったかを検証する。

アンケートや反省会の結果を安全日誌に記録し、次回以降の活動に活かす。

**森の大切さや手入れすることの重要性
森林ボランティア活動の意義
林内でのマナー
等について、会員みんなが理解し、広く普及啓
発することがリーダーの大きな役割**

安全リーダーチェックリスト

事前確認	1	活動内容などリーダー間やスタッフで打合せをおこなったか？	
	2	倒木・支障木・枯木の危険はないか？	
	3	転石・落石などの危険はないか？	
	4	マムシ・ハチ・ウルシ等の危険はないか？	
	5	参加者に適した作業地・作業内容か？	
	6	緊急時に携帯電話・無線等で通信できるか？	
	7	避難経路の確認や緊急車両は備えられているか？	
	8	救急用品は備えられているか？(中身もチェック)	
	9	スタッフの人数は適切か？	
	10	カリキュラムに無理は無いか？	
	11	気象条件は適しているか？	
	12	作業に適した道具があるか？	
	13	道具はきちんと整備されているか？	
	14	参加者の情報を把握しているか？ 氏名・生年月日・性別・血液型・緊急連絡先・アレルギー・作業経験度	
	15	スタッフ全員が現地状況・運営体制を把握しているか？	
	16	緊急時や作業変更・中断の指示・連絡等の役割分担を把握しているか？	
メ　モ			
直前確認	1	安全な作業方法を伝えたか？	
	2	やってはならないことを伝えたか？	
	3	現地の状況・作業内容は伝えたか？	
	4	現地の危険箇所は伝えたか？	
	5	個人所有の道具は作業に適しているか？	
	6	長袖・長ズボンを着用しているか？	
	7	襟・袖が締まっているか？	
	8	ヘルメットの着用は大丈夫か？	
	9	アゴひもは確実に着用されているか？	
	10	靴・地下足袋等、滑り止めが付いているか？	
	11	メガネ・ゴーグル等は着用しているか？	
	12	携帯灰皿を持っているか？	
	13	保険証や常備薬の携行を伝えているか？	
メ　モ			
作業時確認	1	隣接作業に十分な安全範囲を守っているか？	
	2	上下作業になっていないか？	
	3	適切な作業手順を守っているか？	
	4	危険な場所で作業していないか？	
	5	無理な体勢で作業をしていないか？	
	6	保護具・服装は乱れていないか？	
メ　モ			